

Koyo De MÉXICO, S.A.

- 光洋メキシコ -

1. 会社概要

社名 Koyo De MÉXICO, S.A.
 所在地 メキシコ合衆国メキシコ州ナウカルパン市
 創立 1969年
 資本金 280万ペソ
 従業員 25名
 業種 各種ベアリングの輸入販売

2. 地域の紹介

メキシコといえば、テキーラ、サポテン、ピラミッドといったものが思い浮かんでくるが、現在では石油・銀などの天然資源の輸出(産出量は世界トップ10に入る)などに加え、自動車部品、機械が輸出の60%近くを占める工業国として発展してきている(メキシコはOECDの加盟国でもある。)

国土は日本の5倍の広さを持ち、人口は96百万人、そのうち約90%がローマカトリックの信者ということで、先般のローマ法王がメキシコ訪問時の歓迎ぶりはすさまじいものがあった。

言語はスペイン語であり、NAFTA加盟国で、地理的、外交的にも米国に非常に近い国ではあるが、まだまだ英語の通じる所は少ない。しかし、メキシコ人は親切で人なつっこいので、こちらの拙いスペイン語に耳を傾け理解しようと努めてくれ、助かることが多い。

そういった国民性とカンクーン、アカプルコといったリゾート地、またマヤ、アステカのピラミッド、遺跡などの豊富な観光資源に魅せられて多くの外国人がメキシコを訪れている。



テオティワカン 太陽のピラミッド



ソチミルコ

一方、メキシコ市の大気汚染および治安は年々悪化しており、一番の頭痛のタネとなっている。大気汚染は世界でも一、二を争うひどさで、目、喉などに異常を感じるのは日常茶飯事。残念ながら根本的な対策はなく、このまま汚染に蝕まれていくのかと考えると恐ろしくなる。治安については各自が気をつけているが、アンケートによると市民の2人に1人が何らかの被害を受けており、なかなか防ぎ切れるものではない。(筆者もそのうちの1人である。)

メキシコには非常に親日家が多く、気候、食事なども含め日本人にとっては非常に住みやすい国といえるだろう。メキシコ市内には日本食料品店(日本と比べ値段は高いが)、日本レストラン、日系人医師などが揃っており、また商工会議所、各種サークル、県人会活動なども活発に行われている。現在メキシコには企業の駐在員も含め、約2万人の日本人が在住。その数は年々増える一方、



大寺院

日本人学校の生徒数は逆に減少傾向にあり、現在200名である。

治安およびスクールバスの問題上、日本人の住む地域が限定されていること、また言葉の問題なども関係するが、地域社会との交流がまだまだ足りない。

3. 会社の紹介

当社は、1969年10月にメキシコ市場進出のため、メキシコ市に設立し、その後販売拡大に伴ない、事務所・倉庫を現在のナウカルパン市に移転した。



光洋メキシコ事務所

1970年代にメキシコ主要4都市に支店を開設したが、1980年代のメキシコ経済危機の影響で全支店を閉鎖し現在に至っている。

1999年で創立30周年を迎え、日本から進出のベアリングメーカーの中では最も古く、またメキシコ進出日系企業の中でも最古参の一社に入る。所在地のナウカルパン市はメキシコ市中心部より車で約20分の所にある工業都市。当社の周りには進出ベアリングメーカー、代理店など多数あり決して治安のよい地域ではないが商売上の環境はよい所である。当社は「お客様第一」をモットーに社員全員が笑顔で営業活動に取り組んでおり、特に自動車、農機、電機などメキシコ主要産業の客先に当社製品の浸透を図っている。

メキシコ市場では欧米メーカーの歴史も古いですが、当社も顧客の多様なニーズに対応するためきめ細かなサービスを駆使し営業と技術、サービス活動に努力中である。

4. 今後の展望

メキシコのNAFTA加盟後、海外からの投資は増え続けており、今後特に自動車産業を中心に発展が大いに期待できる環境下にあつて、ベアリングの需要も伸びていくと考えられる。当社も、流れに乗れるようさらに顧客へのサービスを充実させるとともに、メキシコ社会に少しでも貢献できる企業として活躍し発展していきたい。

ただし、これからの発展に期待する反面、過去の例から見ても大統領交代時期(6年毎)には通貨切り下げなどによる経済危機を繰り返しており、この点については十分注意していく必要がある。

(光洋メキシコ 吉川武志)